

## 令和6年門真市教育委員会第4回定例会

開催日時 令和6年4月24日（水） 午後2時

開催場所 本館2階 大会議室

### 議事日程

- 日程第1 会議録署名委員の指名
- 日程第2 会期の決定
- 日程第3 承認第3号 臨時代理による事務処理の承認について  
(令和6年度門真市立学校管理職人事について)
- 日程第4 承認第4号 臨時代理による事務処理の承認について  
(令和5年度教育費補正予算の見積り申出について)
- 日程第5 議案第13号 令和5年度大阪府中学生チャレンジテスト（1年生・2年生）結果の公表について
- 日程第6 議案第14号 門真市立義務教育諸学校教科用図書選定委員会委員の委嘱及び任命について
- 日程第7 議案第15号 門真市立義務教育諸学校教科用図書の選定に伴う諮問について
- 日程第8 諸報告

### 本日の会議に付した事件

日程第1から日程第8まで

### 出席委員

教育長	八木下 理香子
教育長職務代理者	澤田 京子
委員	高橋 元
委員	松宮 新吾
委員	満永 誠一

### 事務局出席職員

教育部長	水野 知加子
教育部教育監	峯松 大輔
教育部次長	大倉 善充
教育部総括参事	井手 邦宏



次に、歳入についてであります。

戻りまして議案書10ページをご覧ください。款：財産収入・項：財産運用収入・目：利子及び配当金35万6千円の追加は、教育振興基金利子として計上するものでございます。

次に、款：寄附金・項：寄附金・目：教育費寄附金15万円の追加は、市民からの寄付金及び企業版ふるさと納税寄付金を計上するものでございます。

[全委員異議なく、承認]

## 日程第5

議案第13号 令和5年度大阪府中学生チャレンジテスト（1年生・2年生）結果の公表について

説明者 岡田学校教育課参事

議案書12ページ及び別添カラー刷り資料をご覧ください。

1月10日に実施されました大阪府中学生チャレンジテスト（1・2年生）の結果概要が2月29日に大阪府より公表されましたことに伴い、本市でもその結果について市民の方々にお知らせすべく公表したいと考えております。

公表の内容につきましては別添カラー刷り資料をご覧ください。

1枚目の表面は、中学校1年生の調査の概要、調査結果の概要、国語・数学・英語の平均得点及び平均点を活用した対府比を経年比較したグラフ、そして参考資料といたしまして、4月に実施いたしました門真市学習到達度調査結果の対全国比の数値と今回の結果対府比を点線をつないだグラフ、そして今後の取組についてでございます。裏面には、生徒アンケート調査11項目の結果、アンケート調査結果について掲載しております。

2枚目の表面は、中学校2年生の調査の概要、調査結果の概要、国語・社会・数学・理科・英語の平均得点及び平均点を活用した対府比を経年比較した異集団と同一集団のグラフ、今後の取組についてでございます。裏面には、生徒アンケート調査11項目の結果を、アンケート調査結果について掲載しております。

公表につきましては、本日議決をいただければ、門真市のホームページに掲載したいと考えております。

八木下教育長： 説明は終わりました。本件に対する質疑はありませんか。

松宮委員： 公表等についての異議はございません。参考までに意見を述べさせていただきますと思います。

こういうかたちで毎回テスト結果が公表されます。それに基づいて委員会が学力向上プランであったり、そういうところを改善していくという流れということが循環できるようにと思っておりますが、どうしても点数であったり、正答率というものにとらわれがちになってしまいますので、特に重要になってくるのは、いわゆる目に見える学力の下支えをする目に見えない学力の部分ですね。そこが表れているのが今日、提示されていますこの生徒アンケートの中に結構出てきているんですね。このチャレンジテストのデータも共有しながら、私の方でも独自に分析を行っているのですが、この見えない学力を底支えしている様々な因子が出てきています。その中で成績に対して、非常に有意に効いているものが何かといいますと、思考を深めていく深化型因子、それから自立型の学習すなわち自分の学習を自分で自己管理できるような自己管理型の学習ができる子どもたちというのは非常に成績が優位になっています。

例えば、今日いただいた資料のアンケートの右から2つ目の、家で自分の苦手なところ、必要なところを考えて勉強しているというところに高い回答を示している学生が非常に高いんですね、そういうところを考えてみますと、学力の高い生徒は、学力を下支えする見えない学力の部分をしっかりと身につけていると思います。本市でも今後学力向上の方向性や指標等が策定されるというふうに聞いておりますが、そのあたりをしっかりと教育センターを中心に分析いただいて、学校のほうにそのアイディアといいますか、新しい枠組みを提供していただければというふうに期待しているところです。

それから、これはどう分析したらいいかわからないのですが、それ以外にICTのタブレット等の活用に関しては、成績にはほとんど効いていないんです。残念ながら。これは、統計的に証明されています。それで、2つの考え方があるのですが、それほど日常的にも浸透してしまっていると考えなのか、それともICTが思考を深めるといったツールとしてなかなか使われていないと考えるのか。確かに、授業中に出していますよといったそのあた

り、少し検証しながら学力向上ということに取り組んでいかれると、このデータというのは生きてくるのかなというふうに思います。何かが上がった、下がったという一喜一憂も必要ですが、やはりそこの部分をしっかりと出した値は意識していく必要があるのかなというところを参考までによりしくお願いします。

八木下教育長： ありがとうございます。他にありますか。

満永委員： はい。私も今の松宮委員の意見に賛成です。その点数の背景にはいろいろありますよね。どんな環境で学んだか、誰と学んだかなど、それからどのような雰囲気学んだのか、そういったところも点数に反映するのでその背景を大事にすることといえば、やはりこういうフィールド評価も大事ですね。こういった定性評価もきっちり見ていく必要があると思います。それが学力向上のプランに含まれているんですね。学力向上のプランには5つの視点というものが含まれているということですね。そういった点を大事にしてほしいなという前置きの中で、点数にはなってしまうんですが、1つ目は、1年生の異集団における対府平均の経年比較ですが、数学はこの3年間すごく落ちています。この原因はどう考えているのかなということが1つと、2つ目が、私は小学校の校長を最後にやっておまして、チャレンジテストの説明をしていました。今の小学校の先生の25歳以下ぐらいはチャレンジテストなんて受けていないんですね。チャレンジテストが始まって10年ぐらいですかね。だから大阪府の入試は未だに中3の成績だけが入って相対評価と思っている先生もいました。しかし、今やもう1年生からも絶対評価になっています。1年生の成績から内申書に入るということもあると、だから6年間、小学校での積み重ねがこの子たちの15歳の壁を、特にしんどい門真の子どもたちが15歳の春を泣かないで迎えるためには、やはり今から積み上げないといけないというような話をずっとしていました。

案外知りません。小学校の先生は。チャレンジテストを実際6年生の子どもにやらせたり、あと、6年生の担任に頼んでやらせたりすると喜んでやっていました。大阪府のホームページからダウンロードできるので、そういった結果を小学校の先生は中学校だけのものだとは思わずに、小学校としてどう受け止めるのか、今の自分が受け持っている子が、15歳の春、しっかり自分の思い

を叶えるようにするためにはどういうふうにしていけばいいのかという意識を持たせることも必要かと思うのですが、そういう小学校教員に対して、この結果をどのように伝えたり、どのような授業改善を求めアプローチし、これから知っていてももらえるのか、校長も含めてというのが2つ目。

3つ目ですが、数学に限らず去年から中1の到達度調査始まっているのかな。今年から？

岡田学校教育課参事： 今年はないです。去年で終わっています。

満永委員： 去年で終わっている？だったらこの学年は1つ、今の2年生は、去年受けていますね。同一集団で見ると、若干中学校は下がっているというふうに見えますね。同じテストではないので何とも言えないですけど、そうするとその数字の到達度調査の結果はどんなふうに中学校の授業改善に生かされたのかというのを検証してほしい。また中学校、小学校の授業改善を今後、今年からどうやっていくことをセンターとしては考えているのか、応援チームみたいなものが出来ているみたいですし、その辺りをちょっと大雑把な聞き方かもしれませんが、この3つをセンター長にお伺いしたいです。

岡田学校教育課参事： はい、今ご指摘いただいたところですが、ちょっと今考えているところとして、少しご報告させていただきます。

まず、市内全体で見ますと、今回のチャレンジテストは、満永委員のご指摘の通り、中1の数学そして中2の理科は、大きく下降しているという結果になっております。現在、担当を中心に改めて過去の聞き取り等も含めて分析をしています。その中で、原因として今2点、センターとしてちょっと考えていることは、まず一つが、授業スタイルが今求められている、いわゆる松宮先生がおっしゃられたような、この資質能力に合った授業スタイルになっていないのではないかというのがまず1つ目で、2つ目が、いわゆる6割問題というものがございまして、平均正答率6割に到達していない児童生徒の数をずっと調べてまいりましたが、その向上がなかなか見られないということで、下位層、言い方が悪いですが、なかなか課題のあるフォローが必要な子どもたちへのフォローの弱さという部分が日常の授業の中で、出来ていない

のではないかという課題を持っています。

どうしてかといいますと、まず市内全体の設問別結果を見ますと、今日も朝、少し見てきたのですが、傾向として基礎的な問題および選択の問題は府と比べて比較的正答率が高いです。無回答率も低いということが本市にはあります。ただ、しかしながらこの基礎的な知識を活用した、発展問題および記述問題等になると途端に正答率の低さ、無回答率の高さというものが顕著にみられています。言い換えますと、活用分野や思考力を問われるいわゆるアウトプット設問みたいなどの弱さが見られています。ただ、学校別の結果で見ますと、例えば委員ご指摘の、中1の数学というのは、昨年度より向上している学校が2校あります。この2校と残りの4校の違いは何なのかというところでも、いま見えています。聞き取りをさせていただいたのですが、向上している2校では、先ほどの松宮委員のお話はちょっと違う部分があるかもしれないのですが、授業でのICTの積極的な活用という部分と、授業内でのいわゆる支援が必要な子どもたちへのフォローを積極的に行っているというところに、この2校の傾向がございました。具体的には、ICTを活用して、個に合わせた演習問題を取り組ませているということであるとか、その間、教師は絶えず話をしているわけではないので、フォローに回るといようなことを意識して、授業においても発展的な問題をグループの共同学習という形で、ICTを使いながら思考するという時間を意識的に設けているというのが、この2校の授業者を確認した傾向でございました。そういった生徒自身が、自分自身でいわゆる一斉式の講義式の授業ではなく、生徒自身が自身のレベルに合わせて思考する時間が取られているということが、この2校で上昇という結果に繋がっているのではないかというふうに、今、教育センターでは見えています。

しかしながら、それらがまた中学校ですが、教師ごとの授業者の知識や力量に左右されるという部分が確かに多く、年ごとの結果の開きにはなっているのかなというふうに思います。したがって、改善の方向性としては現在、市が推し進めております一斉授業だけではなく、この授業スタイルというものを進め、生徒自身が個に合わせた学習を選択したり、基礎的な知識を活用しながら思考力を伸ばす授業展開を教師が生徒の学習に、伴走といいますか寄り添いながら、授業展開のあり方を学校レベルで改善してい

く必要があるというふうに考えています。

もう1つが小学校教諭の授業スタイルと、あと中学校への授業改善などの活用をどうしているのかということですが、この辺はチャレンジテストだけではなく、全国学力・学習状況調査、市学力調査、チャレンジテスト、全てに関わることかなというふうに思うのですが、まず中学校はもとより小学校にも伝えていくことがまず重要であるという認識をしております。昨年度も、例えばすすく問題であっても中学校に問題を配布させていただいて、研修で実際に解いていただくというようなことをしております。分析の結果、周知に関しましてはまず学校のほうに、担当のほうから、担当の先生に伝えさせていただくということは今年度、指摘させていただいております。今年度、学力向上担当者が集まる学校ビジョン研修というものがございまして、また、専科教員が集まる担当者会というものがございまして、そちらでも、早め早めに結果と、今お話しさせていただいた分析等は、説明させていただいております。そういった上で、校内研修の充実を今年度取り組んでおりますので、各校の担当者が、校内研修で各校の先生方に周知していただきながら、自己の取り組みとリンクさせながら授業改善を進めていただくという方向で考えております。あと、中学生ですけれども。中学校においては、例えばチャレンジテスト、市学力調査、全国学力・学習状況調査の後にもまず、各校結果概要の作成をお願いしております。その中で、特に昨年度で言えば、評価会等でまず問題の分析、問題ごとの生徒の回答の分析、傾向ですね。府との正答率の差が大きい問題等において、実際に自分たちが行った指導方法と結果がどのような関係があったのかについて分析をしながら振り返り、授業の改善に進めていただいております。こういったものを満永委員がおっしゃっていたように、伴走チームというのが今年度ございまして、学校訪問を常に行うというか、集中的に行うチームがありますので、その辺とも共有しながら学校訪問の機会を使いながら、学校に周知しながらこちらとしましても指導や助言を進めていくという形で考えております。

八木下教育長： ありがとうございます。他に何かございますか。

では、お諮りします。本案は原案の通り決することにご異議ございませんか。

[全委員異議なく、可決]

日程第 6

議案第14号 門真市立義務教育諸学校教科用図書選定委員会委員の委嘱及び任命について

八木下教育長より、本件は教科用図書が採択されるまで秘匿にする必要があるので、非公開にて審議したいとのこと。各委員に諮ったところ、全委員異議なく、了承、非公開にて審議された。

[議事録 省略]

[報告案件終了]

時間 午後 2 時22分から午後 2 時27分まで

日程第 7

議案第15号 門真市立義務教育諸学校教科用図書の選定に伴う諮問について

説明者 岡田学校教育課参事

議案書 16 ページからをご覧ください。

本議案は、令和 7 年度中学校使用門真市立義務教育諸学校教科用図書の採択にあたり、門真市附属機関に関する条例第 2 条に基づき、校長、保護者代表、市の職員の代表で構成された門真市立義務教育諸学校教科用図書選定委員会に対して、「令和 7 年度中学校使用教科用図書の適正な選定について」諮問を行うものでございます。

今後の予定につきましては、教科用図書選定委員会において、教科用図書の調査研究、選定作業を進め、7 月の教育委員会会議において選定委員会答申をあげ、ご採択いただきたいと思いますと考えております。

[全委員異議なく、可決]

番号 1 令和 6 年度門真市一般会計当初予算について  
説明者 水野教育部長

諸報告資料の 1 ページをご覧ください。

門真市一般会計当初予算の主な概要についてでございます。令和 6 年度におきましては、令和 5 年度に引き続き門真市第 6 次総合計画の基本計画に掲げる運営方針スマート Biz★かどまの取組を推進するとともに、財政調整基金を繰り入れない収支均衡予算を継続しつつ、人情味あふれる！笑いのたえないまち門真の実現に向け、様々な施策を実施する予算とされたものであります。

上段には、歳入として、1 款：市税以下、20 款：市債まで記載させていただいております。下段には、歳出を記載し、教育委員会所管の予算が含まれる 9 款：教育費は、87 億 2,433 万 9 千円で、38 億 3,062 万 3 千円の増、対前年度比 78.3% 増でございます。

一般会計予算の総額であります。746 億 2,400 万円で、52 億 2,600 万円の増額、対前年度比で 7.5% 増加となっております。

2 ページから 3 ページをご覧ください。

教育費当初予算の概要につきましては、令和 6 年門真市教育委員会第 2 回定例会に上程させていただきました「議案第 5 号令和 6 年度教育費当初予算の見積り申出について」でご説明を申し上げますので、主要な内容をご説明させていただきます。

1 項. 教育総務費のうち事務局費については、学校適正配置推進事業や教育の ICT 環境整備事業、いじめ防止対策事業などを計上しており、前年度より 19 億 2,391 万 3 千円増額しております。

次に、教育振興費については、特別支援教育推進事業や学力向上事業、部活動地域移行検討事業や「チーム学校」支援体制充実事業などを計上しており、前年度より 6,146 万 8 千円増額しております。

次に、2 項. 小学校費のうち学校管理費については、小学校施設整備事業や学校予算配当事業などを計上しており、前年度より 441 万円増額しております。

次に、3 項. 中学校費のうち学校管理費につきましては、中学校施設整備事業や学校予算配当事業などを計上しており、前年度

より7,809万7千円増額しております。

最後に、6項. 保健体育費のうち保健体育総務費については、給食運営事業などを計上しており、前年度より2億7,447万円増額しております。合計額といたしまして、令和6年度は63億1,909万4千円となっております。

なお、本教育費当初予算には、市長部局へ補助執行をいたしております幼稚園関係、社会教育関係の予算も含んでおります。

次に、4ページをご覧ください。先程の当初予算に加えまして、前年度から繰り越した中学校施設整備事業の予算を記載いたしております。

—すべての報告が終了—

八木下教育長            閉会宣言            午後2時35分

門真市教育委員会会議規則第24条の規定により署名する。

門真市教育委員会

教 育 長    八木下 理香子

署名委員    高橋 元